

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL(087)867-4797
FAX(087)867-6446
香川県教職員組合
定価1部50円 1月100円
組合員の購読料は組
合費に含む

香教組ホームページ
<http://www.niji.or.jp/home/kakyoso/homepage>

みなさんからいただいたカンパはさまざまなお求めの実現のための中央行動や県教委交渉の費用などとして大切に使用させていただきます。

県下教職員1913筆の署名を提出

香教組署名提出行動

各職場の教職員の切実な要求を届ける

香教組は2月19日、県下教職員の皆さんから協力いただいた「賃金改善や多忙化解消等のための要求署名」の提出行動を実施しました。当日は各職場から17名の組合員が参加。香教組中尾委員長が、全県から寄せられた1913筆の署名を県教委に提出しました。

県教委は久保義務教育課課長補佐らが対応。参加した組合員が職場の切実な要求を県教委に届けました。
「ご協力いただいた皆さんに改めてお礼申し上げます。」



署名を提出する中尾香教組委員長(右)

退職手当引き下げ反対

今回ほど楽しく署名活動をしたことはない。自分の職場以外の学校にも行ったがどこでも管理職から歓迎され、励ましも受けた。

署名してもらった間にも、あちこちで先生方の不満や怒りの声

が交わされた。当然である。カットは住宅ローンの返済、退職後の生活など生活設計に関わるもの。断じて許せない。

教職員はそれこそ毎日、必死に子どもたちのためにがんばっている。生活の安定がバツクにあつてこそ、教育実践に打ち込める。カットは撤回して欲しい。

(高松支部・松原博志)

給与カットやめよ

教職員は放課後から夜遅くまで子どもの対応に追われている。真面目な先生方が多く、気長に一人一人の子どものために家庭訪問をするなど一生懸命努力している。それなのに残業代が出ない。毎日、一生懸命働いているのにどんどん給与は下がっていく。毎日、一生懸命働いているばかりだ。

真面目にがんばっている教職員のためにどうか、もうこれ以上給与をカットすることはやめてください。

(障支部・石川加代子)

成績主義賃金やめよ

昔は楽しみだったボーナスの支給日が、成績主義賃金の導入以来不安な日になってしまった。自分では、普通に真面目に働いているつもりでも、校長と価値観や教育観が異なると決して「優秀」な成績はつけられないということがある。しかし、「優秀」になるにつれて校長に

合わせるのでは、自分のしたい実践でないものになってしまい、自分をなくしてしまう。県教委は、「人権・同和教育」を進めているのに、なぜ私たちが賃金で差別するのか理解できない。

30人以下学級実現

1月の女性部交渉で要求した小学校4年生において35人学級が実現したことに現場ではとても喜んでいる。

新聞発表を見て、たくさんの方の該当する学校は来年度の体制に明るい見通しがもてた。ありがとうございます。

また、県内ではまんのう町も35人学級の方向へと動いている。これは、県独自の35人学級への弾みになると思う。学力を上げたいという思いは立場を超えて同じ。ぜひ、少人数の方向に発展させて欲しい。

(女性部・中尾美方子)

長時間・多忙化解消を

朝7時30分には多くの先生が勤務に就いている。夜7時30分にも多くの先生が残っている。12時間以上勤務するのが当たり前のような状況である。空き時間には生徒指導などがある。ゆっくりできない。勤務の中にゆとりがない。いわゆる学力に追われる。何かことが起きると管理が厳しくなる。勤務時間調査を行い、教員業務改善アクションプランを出したのは評価できるが、絵に描いた餅で終わらないようにしてもらいたい。長時間

メンタルヘルスの充実を

年末の四国新聞の報道で、精神疾患で病欠休暇を取る先生がとても多い状態が続いている。私は現在の学校に10年勤務しているが、その間に4人の人が精神疾患で退職されたり、顔面の神経が麻痺し、顔の半分が動かなくなったりした。ぜひ、私たちのメンタルヘルスが守れるよう配慮してもらいたい。

これから人事異動の時期だが、先に挙げた新聞報道でも、転任2年以内の病欠休暇が45%を占めるとあったように、転任で環境が変わることによって精神疾患に陥る方がとても多い。ぜひ、できる限り丁寧な配慮を持って人事に臨んでいただきたい。それから、職場環境をよくするという一言で言えば、管理職の果たす役割は決定的に大きい。ぜひ、基本方針にもあるように、必ず適格者を選んでいただきたい。

(丸亀支部・大野孝之)

講師の待遇改善を

近年採用増のため、県内の臨時教職員は新規採用になり、現場で病休や介護休暇等で臨時教職員を派遣してもらいたいときでも、なかなか代替講師が確保しづらい状態にある。野球でいうピンチヒッターがピンチの時活躍できない状態だ。これを改善するためには、講師の採用条件を改善し、よい人材が集まりやすくなること(基本給を増やし採用条件を正探とできるだ

直接ふれあう教員を増やして

力のある主幹は、担任を持つべき。11時間しか授業を持たず、教諭の空き時間が減っている。子どもの対応・保護者の対応ができない、地域を敵に回すようでは困る。

ひとクラスの人数を減らし、子どもと直接ふれあう教員を増やしてください。どうしても、主幹を置きたいなら、定数外でお願いしたい。

(高松支部・濱田里美)

内示制度の確立と広域異動の問題

ここ3年間の広域交流の人数は徐々に減少している。しかし、広域交流が複数回の人がいったり、新採としての配置がカウントされないなど問題点が解消されていない。

退職者増と新採者増を広域人事にも反映し、地域に根ざした安心して地元で働ける人事。血の通った無理のない人事を行ってください。

三豊出張所の時代、三豊観音寺では、内示制度として、お知らせという形で1週間前に「郡市外交流人事」や「へき地人事」について内示があった。2003年度の人事からなくなりました。他県の状況を見ると、愛媛県、徳島県では、新聞発表の7日前には各教職員に内示を行っている。ぜひ、全県下で内示を行っていただきたい。

(三豊支部・石川謹章)

第30回全教定期大会を開催

憲法改悪に反対し、子どもたちの幸せと平和な未来を守るために、共に力を合わせていきましょう

定期大会

北村委員長あいさつ



全教北村委員長

2月16日、17日、東京都内で、全教第30回定期大会が開催されました。香教組からは中尾委員長はじめ3名が参加しました。

北村佳久中央執行委員長は、いじめや体罰などを原因とした子どもたちの自殺があいつぐ状況の中で、「学校においては、子どもたちのいのちが何より大切にされ、いのちを守ることが最優先されなければならない。憲法に立脚し、すべての子どもの成長・発達を保障する民主教育の営みを父母・国民とともに前進させるとりくみを、さらに全国ですすめる全教執行部の決意を表明する」と述べました。

また、「ナショナルリズムをおおる反動的な改憲勢力の多数議席を侮ることなく、恐れることなく、人類の歴史の進歩と発展方向に確信を持ち、子どもたちに希望を語る教職員で組織された、たたかう教職員組合・全教の真価を、憲法闘争において存分に発揮しよう」と参加者に呼びかけました。

全国からの発言

大会討論は、「憲法に立脚し、すべての子どもの成長・発達を保障する民主教育を父母・国民

中尾委員長の発言

香教組中尾委員長は、3つのことを報告しました。香川民主教育研究所が民研報告として特集「育鵬社教科書批判」を作成した。昨年度県立中学校で育鵬社の教科書が採択されましたが、今年度も昨年度と同様に



発言する中尾委員長

採択の動きに対し、すばやくとりくみ、高校教科書での採択を阻止することができた。退職手当削減の提案に対し、高教組、県職連合と力を合わせてとりくんだ。県職連合の交渉前に県との交渉がもてたこと、県職連合の交渉に傍聴参加したことなど意義があった。採用試験勉強会や職場活動によって組合拡大をすすめている。

執行部見解

全教今谷賢一書記長が執行部見解として、「全国の教職員は『競争と管理』の教育政策のもとで、貧困や格差の広がり、構造改革政治のもとで痛めつけられている子どもたちを前に懸命

に奮闘している。学校の在り方日本の教育の在り方を切り替える政策とその運動こそが求められている現在、全教がその中心となつて奮闘していきたい」と述べました。

アピール

大会の中で「学校からすべての体罰・暴力をなくし、子どもたちのいのちと人権が何よりも尊重される学校をつくるために力を合わせましょう」と題したすべての教職員に呼びかける、全教と日高教（日本高等学校教職員組合）共同アピールが発表されました。また大会の最後には、大会アピールも採択されました。

震災復興さよなら原発in香川 明日につなげる大集会とアピールウォーク

日時 3月10日(日) 午前10時~12時
場所 生涯学習センターまなびCAN 3階多目的ホール
(高松市片原町11番地1)

講師 小田川義和さん
(原発をなくす全国連絡会 運営委員・全労連事務局長)

演題 「震災復興と原発問題をめぐる情勢とたたかひの展望」

※ つどいの後アピールウォークがあります。
12時にまなびCANを出発し、四国電力を包囲した後、
田町交番前で解散式を行います。

小黑板

精一杯考えて提出した指導案をダメだと突き返されたらどう思いますか。「ここをどうしろ」と、具体的に指示してくれないとお手上げ状態になつてしまつ。苦勞して採用になつた新採が退職するケースが全国で、香川でも起きているある校長は、新採が提出した指導案を見て、「何なこれ」と言った。それを見ていた初任者担当も同じように笑つていたという話を聞いた。新採を育てる学校の場で、新採を潰すようなことが行われていないだろうか。やる気を失わせることなく、その人のよさをいかして成長させる。教育

若い人を育てるには

のあるべき姿だと思つて、県教委はベテランがどんどん退職していき、若い先生が多くなるので指導教諭が必要と配置をしている。300人もの新採が入るのに指導教諭はたった15人。さらに中学校での指導教諭を配置すると言っているが、なりが足りないといっている。指導教諭は本当に必要なのだろうか。私が新採の頃は、同学年の先生、新採担当がよく面倒を見てくれた。若年同士でおしゃべりしたり、遊んだりいっしょに過ごす中で学ぶことができた。学校全体で若い人を育てようという構えがあった。今は教育の共同がなくなったのか。